

水はどうしてたのかな？

品川宿には、地下水をくみ上げる井戸と多摩川から引いてきた上水(水道)をくみ上げる井戸がありました。多摩川から品川まで、木や石でできた水道管「木樋」と「石樋」ではこんできました。また、当時は石けんも洗剤もなく、排泄物は野菜を育てる肥料になったため下水に流しませんでした。現代に比べ、下水はとてもきれいでした。水を大切に使っていたのですね。



おはなちゃん

どんな人たちがくらしていたのかな？

品川宿は、たくさんの人たちが行き来していたので、商売をするお店がたくさん建っていました。また、石工や大工、仏像をつくる仏師や髪結(床屋)など、くらしにかかせない職人さんがたくさん住んでいました。



さだえもん

どんな人たちが通ったの？

江戸に住む将軍、大名などのお武家さん、京都に住むお公家さんのほか、いまの郵便屋さんにあたる飛脚、物をはこぶ人や馬、旅行にでかける人などたくさんの人でにぎわいました。また、長崎出島のオランダ人や、朝鮮や琉球(沖縄)の使節も品川宿を通過して江戸に行きました。

品川区立品川歴史館
〒140-0014 東京都品川区大井6-11-1
電話 03-3777-4060
FAX 03-3778-2615

品川歴史館

検索



どうかい どう しながわ じゅく 東海道品川宿に

いってみよう！



どーいんくん
(中世品川の海運業者)



いえみつどの
(江戸幕府三代将軍)



おしのちゃん
(品川宿のアイドル)
※架空の人物です



たくあんさん
(東海寺を開いたお坊さん)

品川歴史館の展示を案内してくれるキャラクターだよ！展示室に会いに行ってみよう！



おふじとまつきち
(品川宿に住む旅好き夫婦)
※架空の人物です

品川宿と品川歴史館の展示

東海道品川宿は、慶長6年(1601)1月、徳川家康によってととのえられました。宿場には、大名や公家などが泊まる本陣や脇本陣、荷物を運ぶ人と馬を出す問屋場、荷物の重さをはかる貫目改所、宿泊する旅籠屋や一休みできるお茶屋などがあり、多くの人びとでにぎわいました。

品川歴史館の展示室には、品川宿のコーナーがあります。このパンフレットを片手に展示室にいってみましょう！

★スクリーンの映像をみて江戸時代にタイムスリップ!



みょうこくじ ごじゅうのとう
★妙国寺の五重塔

むらまち すずきどういん
室町時代に鈴木道胤がたて、
将軍家光がたて直した五重塔が
ありました。今の天妙国寺です。



ごてんやま どうかいじ
★御殿山と東海寺

いえみつ たくあんおしろう
3代将軍家光と沢庵和尚の時代を復元した模型です。
御殿山には、その後8代将軍吉宗が桜を植え、多くの
人びとでにぎわいました。



まちな
★品川宿の町並み

目黒川を挟んで南北 500 メートルを模型に
しました。よ〜くみてみましょう!



ほんせんじ
★品川寺の六地藏

江戸の六ヶ所の出入口に、銅でつくった
大きなお地藏さんを置きました。

かいあんじ
★海晏寺

江戸時代は紅葉の名所でした。

すずがもり けいじょう
★鈴ヶ森の刑場

悪いことをした人たちを罰した
ところです。

★立会川

★海岸線の石垣

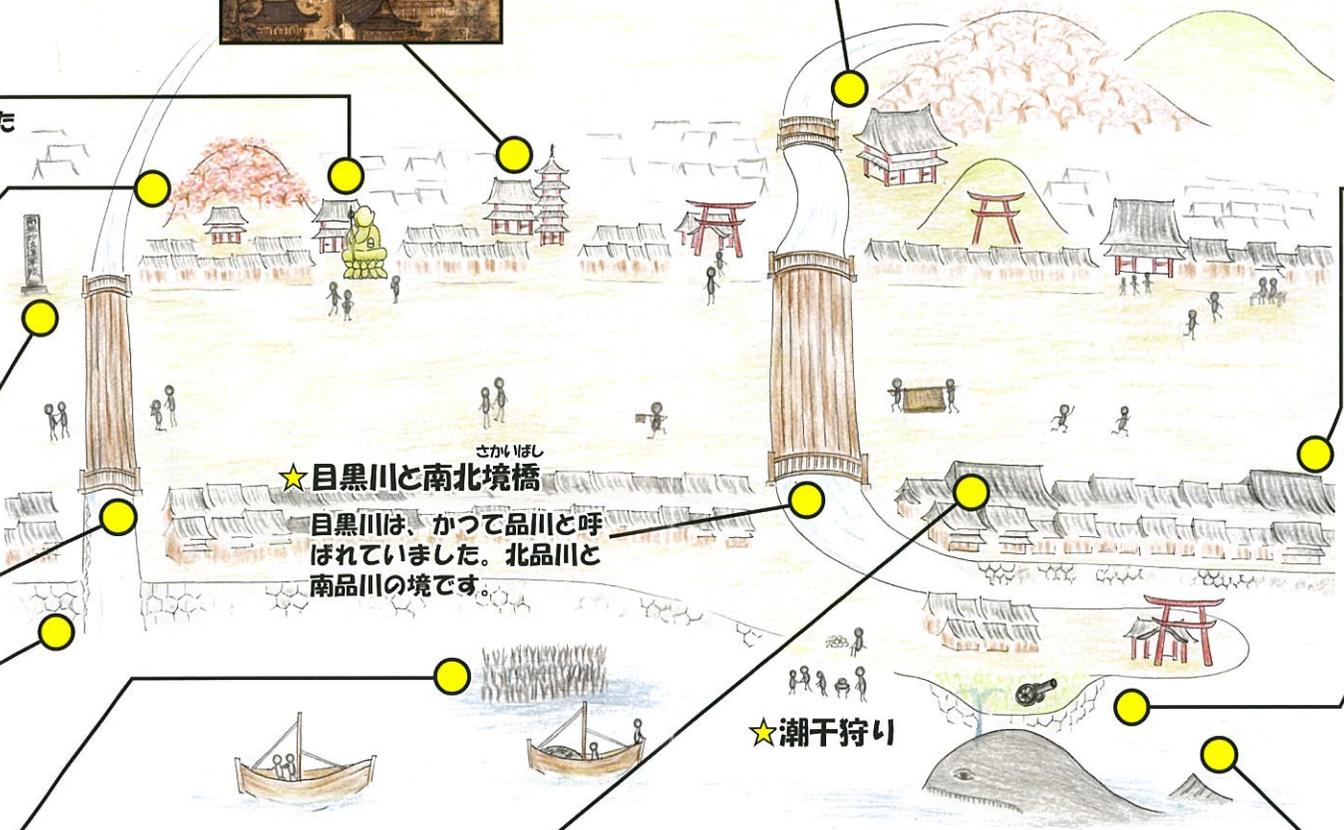
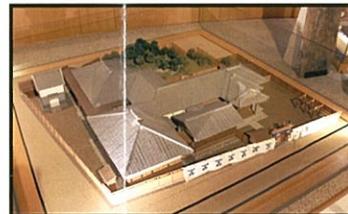
伊豆半島や千葉の「のこぎり山」
でとれた石を使っていました。
いまも一部のこっています。

のり
★海苔ひび

このあたりの海岸では、海苔を
育てて売っていました。また、
新鮮な魚といっしょに、将軍の
住む江戸城にもおさめました。

ほんじん
★品川宿の本陣

品川宿で一番大きくて重要な宿泊
施設。江戸城の将軍に会いにくる
全国の大名や京都の公家が泊まっ
たところです。



どどうさがみ
★土蔵相模 (相模屋)

北品川にあった大きな旅籠屋です。
土蔵のような「なまこ壁」をしていた
ので、土蔵相模と呼ばれました。



おだいほ いしがきいし
★御台場の石垣石

品川歴史館の玄関わきには、
江戸時代の終わりの品川宿
の近くにつくられた御殿山下
台場の石垣石があります。



★くじらもやってきました!

かんせい
寛政10年(1798)、品川沖に
一頭のくじらが迷い込み、こ
こで亡くなりました。品川宿
の人たちは鯨塚とよぶお墓を
たてました。

★潮干狩り

